

# 幼児教育演習科目における試験方法の工夫 — コンピュータミュージック & AV機器を用いて —

## Methodology for Testing in Pre-School Educational Exercise Curriculum: Using Computer Music and Audio-Visual Equipment

(1993年4月7日受理)

大原正義  
Seigi Ohara

Key words: 緊張感, 自己を知る, 意欲

### はじめに

短大における保母養成課程, 幼稚園課程では数多くの教科を履修する必要があるため, 音楽における声楽や器楽のように実技面に大きなウエイトのかかるものについては, 授業時間が不足しているため, 保育現場に出て専門教育と現場の教育の接点にとまどう者が多いように見受けられる。このことは, 本学, 幼児教育科においても例外ではない。

一方, 日頃, のんびりしているように見える学生も, 前, 後期の定期試験の頃になると, 単位修得のためとはいえ真剣に試験勉強に取り組むようになっていく。

試験を学生の成績評価の機会としてとらえるだけでなく, 教師自身がおこなっている日常の授業が, どれくらい学生に理解されているかを知る機会であり, 試験方法を工夫してゆけば, 学生自身に真の学力を身につけさせる絶好の機会にもなるのではないだろうか。

この度, 私自身が担当している幼児音楽A, 表現Aの教科において, 試行錯誤を繰り返した後に試みた試験方法と, その結果について報告する。

## 1, 幼児音楽A 「童謡曲名当試験」

### 実施動機

最近の学生は, ポピュラーミュージックについては, 日頃, TV, CD, ラジカセ等で, 実に良く音楽を聴いており, そのメロディーの一部分を聞いただけで, 直ちにその曲名を当てることができる。この事柄をヒントに, 限られた授業時間内にできるだけ多くの童謡を身につけさせる方法として「童謡曲名当試験」を考えつく。

試験課題, 並びに学生の試験に対する意識を高めるために示した事項

- 1) 本学が観賞教材として備えている童謡のレコード, CD, カセットテープの中より, それまでの

授業には用いていないが、保育現場で役に立つ27曲を課題曲とする。

- 2) 課題曲27曲の中より20曲を出題する。
- 3) 試験では、それぞれの曲のメロディーの数小節しか出題しないので曲全体を何回も聞いておく必要がある。
- 4) 歌入りの課題予習テープと同じ物では、歌詞から曲名がわかってしまうため、試験にはコンピュータミュージック機器で作成したメロディーのみを流す。
- 5) 夏休み明け最初の授業に試験を実施する。
- 6) 4つのクラスの授業時間帯が違うため、クラスによって問題を変える。
- 7) 保育者になるには出来るだけ多くの童謡を聞く必要がある。

課題予習テープについて

- 1) 27曲を1本のテープにまとめた「課題予習テープ」を作成する（著作権問題を考慮して曲を1番のみに限定して録音）。
- 2) 夏休み前、本学のダブルカセットデッキ2台を用いて全員に「課題予習テープ」をダビングさせる。
- 3) 課題曲の曲名を記したカセットテープ用のシールを作成して全員に配布する。

表1 課題曲の曲名入りシール

<p>A面</p> <p>おつかいありさん やぎさんゆうびん          あさいちばんはやいのは うみ          かもめのすいへいさん みずあそび          しゃぼんだま はなび アイスクリームのうた          とんでったバナナ トマト 走れ超特急          ちかてつ おなかのへるうた ゆりかごのうた          せみのうた</p>	<p>B面</p> <p>こおろぎ いちねんせいになったなら          ちからもちエッヘン おしゃべりきかんしゃ          ラリルレロボット ほくのミックスジュース          パジャマでおじゃま ホ!ホ!ホ!          忍者はどこじゃ ケンカのあとは          赤鬼と青鬼のタンゴ</p>
---	--

試験問題作成について

- 1) コンピュータミュージック機器を設置準備する。

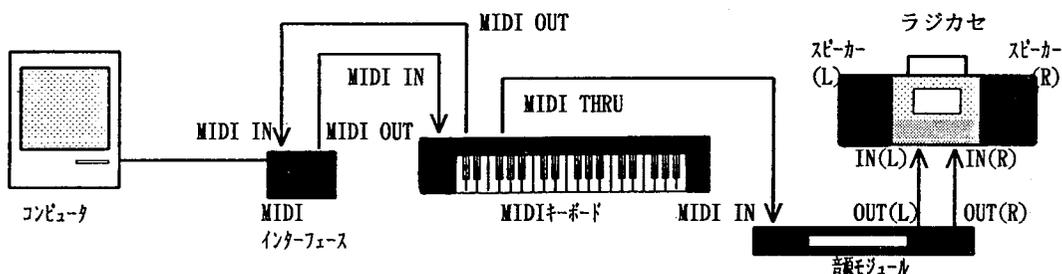


図1 コンピュータミュージック機器の接続図

2) 27曲の課題曲はE Zvisionというソフトの中にある「アレンジメントウインドウ」に; MIDIキーボードを用いて打ち込み, 曲名も入力する。



図2 「走れ超特急」のメロディー入力箇所

3) それぞれのクラスの試験時間が違うため, 曲順を変えた4種類の問題を作成する。

表2 1クラス試験曲

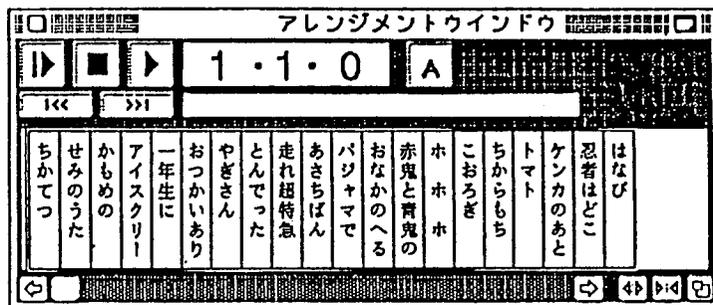
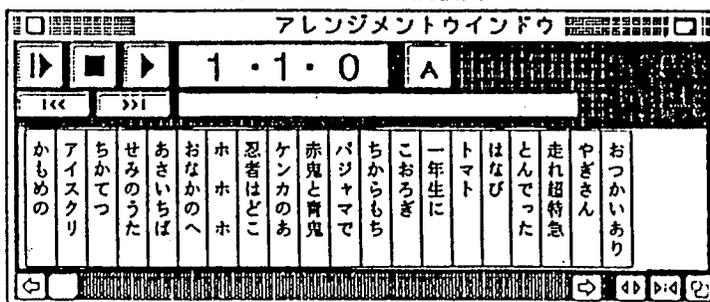


表3 2クラス試験曲



- 4) 出来上がった試験問題は, コンピュータに接続したカセットテープレコーダーを用いてカセットテープに録音。
- 5) 常に学生の様子を見ながら試験を行なうため, ワイヤレスリモコン付きカセットデッキを用いる。
- 6) 採点作業を短縮するため, 学生にボールペンまたは色エンピツで自己採点をさせ, 用紙を回収した後, こちら側で検算する。

#### コンピュータミュージック機器を使用した理由

- 1) ワープロの文字移動と同じように簡単に曲の並び変えができる。
- 2) テープレコーダーと同じように簡単に再生することができ, 曲の頭出しがCDより早い。
- 3) 入力した曲の修正が簡単に行なえる。

## 試験後の感想文

### 成績が良かった方の学生の感想文（下記のいずれかに所属）

- 1) テープを何回も聞いていたら、自然に曲が覚えられたので、この試験方法がとても気に入った。
- 2) 限られた授業時間内で、たくさんの童謡を覚えるのは限度があると思うが、この方法ならば、たくさんの童謡が覚えられるのでとても良いと思った。
- 3) 試験でもなかったら、このようにたくさんの楽しい童謡を聞くことはなかったと思う。
- 4) 何となしに曲を聞いていたら、だんだん曲が頭に入り、今は気に入った歌を口ずさめるまでになった。これを機会に、将来のためにも積極的に多くの童謡を聞いてゆきたい。
- 5) 課題予習テープを何回も聞いていたら、子どもの頃にもどったような気がして嬉しくなった。このテープと同じ曲を専門職についてからも用いるようにしたい。
- 6) 最初は「童謡の曲名当て試験なんて・・・」と思っていたが、この試験を体験してから童謡がとても好きになった。またこのような試験をしてほしい。
- 7) 夏休みに毎日テープを聞いていたら、曲が頭から離れなくなって困ったが、試験の方はおかげで簡単にできた。
- 8) 子どもの頃、歌っていた曲が課題予習テープの中にあったが、よく聞いていたら歌詞を間違っ歌っていたことに気がついた。
- 9) 試験中は緊張してどきどきしていたが、今は無事に終わりほっとしている。
- 10) 家で母と一緒に課題予習テープを聞きながら曲当て競争をしてみたら、母の方が良く知っていた。
- 11) 課題予習テープに入っている楽器の音色と試験曲での楽器の音色が違って、最初はとまどったが、落ち着いて聞いてみると、何回も聞いた曲だったので安心した。

### 成績が悪かった方の学生の感想文（下記のいずれかに所属）

- 1) 課題予習テープに入っている楽器の音色と試験曲での楽器の音色が違っていたので全然わからなかった。
- 2) 試験前になってあわててテープを聞いたのでだめだった、夏休みにもっと聞いておけば良かった。
- 3) 完全に努力不足です。今度、もし同じ試験があるならば真面目に予習したい。

## 2、「ネズミの菌みがき」表現試験

### 実施動機

本学幼児教育科では、表現力に優れた保育者を育成するため、2年前期に「表現A」という教科を設けているが、それまでの試験では、前もって課題を出し、後日、個々に試験を行なうという一般的な方法であった。しかし、学生の試験に望む姿勢と表現力が今一步であったため、次の試験方法を工夫して実施する。

### 試験課題

前もってネズミのペープサートを制作し、そのペープサートを用いて歌を歌いセリフを言う

簡単なペープサートを作って楽しく遊んでみましょう。

図のようにネズミの歯は5本にし、ちぎり取れるように作ります。食べ物は1枚のペープサートでも良いのですが、図のように二つに折れるような作り方も研究してみましょう。

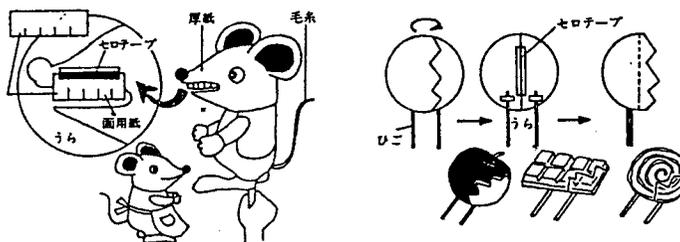


図3 ネズミのペープサート制作見本

### 歌詞

ねずみの前歯 ガリ ガリ ガリ，ねずみの前歯 ガリ ガリ ガリ，あら1本かけちゃったー  
 ねずみの前歯 カリ カリ カリ，ねずみの前歯 カリ カリ カリ，あら2本かけちゃったー  
 ねずみの前歯 コリ コリ コリ，ねずみの前歯 コリ コリ コリ，あら3本かけちゃったー  
 ねずみの前歯 ポリ ポリ ポリ，ねずみの前歯 ポリ ポリ ポリ，あら4本かけちゃったー

セリフ「困ったなー，困ったなー，とうとう歯が1本だけになっちゃった！」

### 学生の試験に対する意識を高めるために示した事

- 1) ピアノの試験のように、実技試験は、やり直しがきかないから、日常の積み重ねが必要である。
- 2) 試験は別に設けた試験場で個々におこない、すべてVTRに録画する。
- 3) 録画したVTRは、後日、1クラスの採点は2クラス、2クラスの採点は3クラス、3クラスの採点は4クラス、4クラスの採点は1クラスというように、学生自身に採点させる。
- 4) この試験を経験すると、採用試験や保育現場に出てから必ず役に立つ。
- 5) 試験は1週間後に実施する。

### 当日の試験方法

2名ずつ試験場に入れて一人ずつVTRカメラの前で演じさせる。

おじぎ → 「1クラス35番岡山京子です。この、ネズミは名前をチュー吉といいます。このネズミの特徴は、歯が一本一本抜けるようになっていて、お菓子を一つずつ取り替えることができます」とペープサートの説明をする → 「ネズミの前歯 ガリ ガリ ガリ・・・」と歌った後「困ったなー 困ったなー とうとう歯が一本だけになっちゃった」のセリフを言う → おじぎ

採点作業

- 1) 学生全員に、採点を対象とするクラスの数分として、一人40枚ずつの採点用紙を配布して採点基準を説明する。

表4 採点用紙

2年 表現A 採点用紙					
出席番号 ( )		氏名 ( )			
下記のそれぞれの項目で該当する番号を○で囲む					
	とてもよい	ややよい	ふつう	ややわるい	わるい
制作	( 5 )	( 4 )	( 3 )	( 2 )	( 1 )
表情	( 5 )	( 4 )	( 3 )	( 2 )	( 1 )
声	( 5 )	( 4 )	( 3 )	( 2 )	( 1 )
セリフ	( 5 )	( 4 )	( 3 )	( 2 )	( 1 )

表5 採点基準

- 制作 (ペープサートの出来はどうか)
- 表情 (生き生きとした表情で行なっていたか)
- 声 (良い声で音程正しく歌っていたか)
- セリフ (気持ちを込めてセリフを言っていたか)

- 2) 録画した他のクラスのVTRを見せて採点させる。
- 3) 採点作業を終えた一人約40枚の採点用紙は、前に並べた長机の上に出席番号順に揃えさせる。
- 4) 出席番号順に並べられた採点用紙の束は、大型ホッチキスで綴らせる。
- 5) 誰がどの出席番号の学生の計算をするかは、こちら側で適当に決め、採点用紙に合計算出用紙を加えて再び学生に配布する。

表6 合計算出用紙

( クラス ) ( 番 ) 合 計 算 出 用 紙							
	制 作		表 情		声	セリフ	
5	正	4 = 4	正正正正	5 × 4 = 20	正 5 = 5		合 計
4	正正正正	5 × 4 = 20	正正正	5 × 3 = 15	正正正正 5 × 4 = 20	正正正正 5 × 4 = 20	
3	正正正	5 × 3 = 15	正	4 = 4	正正正 5 × 3 = 15	正正正正 5 × 4 = 20	
2							
1							
(各項目とも数を数え易くするため正の字を書かせる)							
小計	39点		39点		40点	40点	158点

- 6) 採点用紙と合計算出用紙を回収して、こちら側で検算を行なった後、成績をコンピュータに打ち込み成績一覧表を作成する。
- 7) 次の授業には、自分のクラスのVTRを見せる。
- 8) 後日、成績を見せて個々にアドバイス。

試験後の感想文

本人が受験しての感想

- 1) 普段、良く歌えていたつもりが、いざ、ビデオカメラの前に立つと、緊張して声が震えて歌詞がでてこなくなり、頭でわかっていたつもりでも動作が伴わなくて困った。実際に保育現場に出た場合には、もっとあがると思うので、とても良い勉強になった。

- 2) この試験方法は、今までに経験したことがないような緊張感があったのでとても良かった。
- 3) 私は物を作ることがとても好きなので、ネズミはうまくできたと思うが、歌う方は自信がなく、緊張して何がなんだかわからなくなってしまった。けれども、一生懸命作ったネズミなので、今後でも大切に用いたい。
- 4) カメラの前での試験は、相手の表情が見えないのでとても緊張した。

#### 自分のVTRを見ての感想

- 1) 今まで自分が演じているところを見たり、他の人が演じているところを見たことがなかったので、とても勉強になった。
- 2) 自分が、実際にどのように歌ったり、演じていたかを見ることができ、とても勉強になった。
- 3) 自分は笑顔で演じていたつもりが、実際は顔が引きつり、手の動きもガラガラしていたので、今後は、もっと大きな声を出し、笑顔で歌ったり話したりできるように努力して行きたい。
- 4) ビデオで自分の演じている姿を見たら、顔の表情がほとんど無く、声も小さかったので、思わず目が点になり、大いに反省させられた。
- 5) 笑顔で大きな声で歌え、とても表現力のある人が数名いたが、すごいなあと思った。
- 6) ビデオを見ていると、それぞれの挨拶の仕方からも、その一人一人の人間性がわかるような気がした。
- 7) 多くの人が、口がバクバク動くネズミや、手足が動くネズミを作り工夫していたので感心した。実習に行った時は、是非、このようなネズミをまねて作ってみたい。
- 8) 普段、おとなしい人が、カメラの前で生き生きと演じている様子を見て、さすが幼児教育科の学生！やる時には、やるものだと思心した。
- 9) 初めは、試験の様子をビデオで録画されるなんて、とんでもないと思っていたが、いざ、経験して見ると、緊張感があつてとても楽しかった。
- 10) ビデオを見ていたら、良く練習ができている人と、そうでない人がよくわかった。

#### 他人のVTRを見て採点した感想

- 1) 何十人もの点数をつける作業をしていたら、表現がどのような人に良い点をつけるか、どのような人に悪い点をつけるかがわかってきて、とても良い勉強になった。
- 2) 人の評価を今までにしたことがなかったので、とても責任を感じた。
- 3) 一人一人を真剣に見ていると、頭がぼーっとして目が疲れてきた。いつも採点されている先生方の苦勞がわかった。
- 4) 笑顔で堂々と演じている人には、少しくらい歌詞を間違っても歌っていても良い点をつけた。
- 5) たまには人の評価を試してみるのも良いものと思った。
- 6) のびのびと大きな身振りで演じていた人には良い点をつけた。
- 7) あまり出来が良くなかった人でも、3以下の成績はつけにくかった。
- 8) 慣れていないので、どのような点をつけたらよいか迷った。

## お わ り に

保育者は子どもの目の高さで物事を見る必要があると言われているが、これは、保育者が子どもと接する場合、子どもの立場になって物事を見るようにすると、その子どもが実際に見たり考えたりしていることが良くわかり、信頼関係も生まれてくるということである。

当初にも述べたが、日本の大学生はよく遊び、大学はレジャーランド化しているといわれているが、この責任は学生ばかりにあるのではなく、私達、教員側にもあると思う。

「相手は大学生だから当然このような事は知っているはずだ・・・とか、自分は大学の教員であるから今さらこのようなことを教える訳には・・・」等というような考えを捨て、日頃、授業で接している学生の中に入ってゆけば、学生の勉学意欲をさらに引き出す授業が展開できるのではないだろうか。

## 参 考 文 献

- 1) 森田百合子, 山本金雄, 山本敬, 秋山衛「新版 声楽教本」教育芸術社 1991年
- 2) 「マルチメディアサウンドパック」カメオインタラクティブ・マーケティング部 1991年
- 3) 阿部直美「手遊び・指遊び」メイト企画 1980年